



## 乳がん薬物療法の進化が止まりません！！

乳がんの薬物療法が、すごく進化してきています。進化の内容は、患者さんのがんのタイプに合わせて使えるお薬が手術の前後に使えるようになったことです。薬物療法を行う際には通院回数や、副作用、コストなどは負担が多くなるのですが、お薬の効果は高くなるという結果がでています。

お薬の進化は、以下の内容です。

進化1：ルミナルタイプ\*の再発高リスク症例の術後補助療法にベージニオが使える様になりました。

進化2：ルミナルタイプ\*もしくはトリプルネガティブタイプ\*\*の再発高リスク症例で BRCA 遺伝子変異が陽性の場合には術後補助療法にリムパーザが使える様になりました。進化3：トリプルネガティブタイプ\*\*の対しての術前治療にキイトルーダが使える様になりました。

進化4：ルミナルタイプ\*の再発中～高リスクの患者さんに対して TS-1 を行うことができる様になりました

これらの進化は、すべてここ 1-2 年で変わってきたことです。

ちょっと難しい話にはなりますが、ベージニオ、リムパーザは浸潤性無再発生存（浸潤性の病変再発と診断された日からあらゆる原因による死亡までの期間）という項目、キイトルーダは病理学的完全奏功（手術をして乳腺・リンパ節に浸潤性病変が残っていない）、無イベント生存（根治的手術を妨げる疾患の進行、局所または遠隔再発など）、TS-1 は浸潤性疾患のない生存期間、全生存期間および安全性などで評価をしています。

例えば、「ルミナルタイプ\*乳がんでリンパ節転移があり手術を行ったところ、病理結果でリンパ節転移が5個あったため、術後化学療法を行った」という場合。以前ならこの後にホルモン療法のみを行っていたわけですが、再発高リスク乳がんに対しての術後補助療法としてベージニオが使えるようになったので、ホルモン剤（5年から10年）とベージニオ（2年）を併用することができるわけです。まだ、3年間の観察ではありますが、ベージニオを併用すると浸潤性無再発生存が5.4%良くなったということです。

これからも、新しい薬剤、適応拡大によりみなさんに良い結果をお届けできるのではないかと期待しています。

\*ルミナルタイプ：ホルモン感受性があるタイプでホルモン治療が効く。ハーツータンパクが多く発現している場合とそうでない場合がある。

\*\*トリプルネガティブタイプ：ホルモン感受性（エストロゲン受容体とプロゲステロン受容体）がなく、また、ハーツータンパクの過剰発現もない。進行が早いことが多い。

\*\*\*ハーツータンパク；ハーツータンパクの過剰発現があり、抗ハーツータンパク療法が効く。近年最も効果が期待できるタイプになった。